

新春祈念読み物

ー日本の木と共に暮らすー



Hello NEWS

カレンダー

2024

1

January

SUN	MON	TUH	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2

February

SUN	MON	TUH	WED	THU	FRI	SAT
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

3

March

SUN	MON	TUH	WED	THU	FRI	SAT
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

4

April

SUN	MON	TUH	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5

May

SUN	MON	TUH	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4			
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6

June

SUN	MON	TUH	WED	THU	FRI	SAT
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

7

July

SUN	MON	TUH	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8

August

SUN	MON	TUH	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3				
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9

September

SUN	MON	TUH	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

10

October

SUN	MON	TUH	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5		
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11

November

SUN	MON	TUH	WED	THU	FRI	SAT
1	2					
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12

December

SUN	MON	TUH	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2024年もどうぞよろしくお願いします。

本物の木を使つた部屋は
若い世代が世界に
飛び立つ力になる

小田原 健



暮らしジャーナリスト

吉松 こころ

新春 対談



都市の暮らしに オアシスを

「日本の木と共に暮らす」を信条に、小田原健さんは70年以上にわたり、国産材を使った家具やインテリアのデザインに携わってきました。89歳になった今も、小田原さんの元には、住宅だけでなくカフェや産婦人科のクリニックなどから、内装リフォームの依頼が来ています。「92歳まで予約でいっぱい」と笑う小田原さんを支える原動力は、日本の森林資源に対する愛着。そんな小田原さんと、賃貸業界で20年以上取材活動を続けてきた吉松こころが語り合いました。

吉松 国内外の林业、家具デザインの世界で実績のある小田原先生が、ご自身の人生最後の仕事場として、賃貸住宅業界を選ばれました。「賃貸住宅を楽しくてしようがない業界にする」と掲げられていましたね。

小田原 そう。僕は、賃貸業界にものすごく期待しているんです。
吉松 なぜ賃貸住宅業界を選ばれたのか、そのわけを知りたいです。

小田原 僕は日本中の住宅事情を見てきたわけだけど、がく然としているのが、首都圏の住宅の質の悪さ。特に若い人が住んでいる

物件ほど良くないね。世界中を飛び回つて活躍する世代であり、日本を豊かにしてくれるはずの世代が、質の悪い家に住んでいたら、思い切つた仕事なんてできっこないでしょう。若い人にこそより良い生活環境を作り、暮らしの楽しみをつくつてあげるべきだと思います。だから、首都圏の賃貸住宅をリフォームしていこう、というのが僕の最大のテーマなんです。

吉松 確かに賃貸住宅に住む人の多くが、新卒社会人から30代くらいの働き盛り世代です。とはいえ、家具の力、デザインの力、あるいは木の力で、家だつたり賃貸住宅業界だつたりが本当に変わるものでしょうか。

小田原 変わります。入居者が足を踏み入れた途端「家つてこんなに良いものなんだ!」と思える



ような部屋が必ず作れます。そのためには本物の材料を使い、生活の機能を考えることが大切です。機能とは家具の配置であり、居心地を生み出すもの。私が考える質の高い住宅というのは、最初から家具や建具が備わっていて、国産のひのきや杉の木のぬくもりが感じられる家です。

吉松 国産材で作った家具が最初からついていたら、入居者は引っ越しのたびに家具を買い替える必要もありませんね。

小田原 例えば私は、「収納＝壁」が理想だと思っています。収納と壁が一体化していたら、いちいち運び込む必要がないだけでなく、大地震がきて棚がふき飛ばされることもないでしょう。地震の力ってどんでもなく巨大で、大き

なピアノだってひっくり返させる力があるんです。私がリフォームした賃貸住宅は、東日本大震災の時も壁が倒れずお茶碗ひとつ割れなかったんですよ。それは本当に大切なことだと思います。

吉松 そうした安全性はもちろんですが、床や壁がひのきや無垢材を使つたものであれば、築年数を経ても味わいになりそうです。

小田原 汚れてしまつても雑巾掛けできれいになり、メンテナンスも簡単です。木は生き物ですから時間が経てば経つほど良くなりますが、オーナーさんにとっても経済的な選択だと思います。

極論を言えば世の中は 賃貸住宅だけで良いと 思っている

吉松

賃貸住宅は全国に200

0万室あって、日本の全住宅の4割を占めるような巨大マーケットです。そこに日本の木が使われるようになれば素晴らしいと思います。しかしながら、賃貸住宅は金融商品でもあるから投資コストと収入のバランスが問われます。

小田原

僕は逆だと思うよ。今

のような造り方をしたら、バランスが取れっこないですよ。賃貸住宅ほど良質で長持ちできるものにしなければならない。入居者が退去するたびにビニールクロスの張り替えをしていたら、費用もかかるし、ゴミを増やすだけです。

吉松

壁一面が収納家具であれ

ば、クロスを張り替える必要もない、ということですか。

小田原 古くなればなるほど、雑巾できれいに拭いてあげれば、ワックスなんて使わなくていいんです。水をしめらせた雑巾で木を拭けば自ら膨らんで細かい傷も直ってしまいます。

吉松 本物を造ったほうが、長持ちし、その上、経年劣化に価値が生まれるというわけですね。

小田原 賃貸住宅という選択はもつとも合理的で経済的な住まい方です。高額のローンを組んで、金利を払つて持ち家を持つより、質の良い賃貸住宅に住む方がいいと、僕は訴えたい。そのためには、高品質な賃貸住宅が必要。僕は極論を言えば、世の中は賃貸住宅だけいいと思っています。入居者の方が誇りを持って住み、ここで



古い建物ほど価値が高くなる時代が必ずくる

吉松 海外では古い建物ほど価値が高まる例もありますね。

小田原 ヨーロッパでは、古い家ほど高く貸せ、高く売れます。それは家を消耗品ではなく、国家的財産である、という考え方で作られているからです。築100年、築200年の建物が堂々と立ち並ぶ姿には、歴史と文化を感じます。もちろん新建材は使われていません。長く維持するには、常にリリフォームやメンテナンスが必要な耐久性の低い建材だと経済的に立ち行かなくなつてしまふからです。今、外国からたくさんの旅行者が来ていますが、日本の何に喜んでるか

知っていますか。古民家だそうで

すね。

吉松 古民家に滞在したり、宿坊に泊まるプランが人気と聞きます。



小田原 日本は、それだけ良いものを造つてきたんです。長野県カラマツを使つてるんですよ。人工事な色合いで、強度もある。カラマツはヤニが出るから嫌う人もいるけれど、あのヤニこそが天然の塗料で美しさを出すものだと思っています。だからウレタンなんか塗つたら絶対にダメなの。

吉松 ふしがあるからダメという人もいます。

小田原 僕の目が悪いのかな。僕はふしを宝石のように美しいものだと思ってます。ふしを指で



吉松 以前、新月に木を切ると反らないと、おっしゃつていましたね。

小田原 新月の前後2～3日目に木を切れつていうのは、昔の林業家に聞くと、そんなの当たり前にやないかって皆が言いますね。

住宅産業から見直せるることはたくさんある

吉松 日本にはスギやヒノキがたくさんあるのだから、もつと国産材を使うべきですね。

小田原 「木は反るからダメだ」と言うのを聞いたことがありますけれど、木は、木編に反るって書いて板と書く。だから木は本来反るものなんです。

吉松 確かにそうですね。気がつきませんでした。

小田原 木は反つたり割れたりするけれど、僕はデザイナーだから、その木が反らないようになでやると、木はおとなしくなるんですよ。今のデザイナーはそれを知らないんですよ。木の勉強をしていないし、山も見てないからね。

建築というのは、どこの国でも形が違います。それは気候風土が違うから。それと、建築するための素材。例えばフランスならパリの建築物はほとんど石でしょう。あの

建築というのは、どこの国でも形が違います。それは気候風土が違うから。それと、建築するための素材。例えばフランスならパリの建築物はほとんど石でしょう。あの

吉松 日本は国土の約67%が森



小田原 手入れがされている森

て、川は真っ赤つか。魚はいなくな

小田原 手入れがされている森林に行くと、いろいろな所から水が流れ出てて、その水が、とってもきれいでびっくりするわけ。山でろ過されているんですね。フイリピンでは、かつて質の良いラワン材がたくさんありました。けれど日本材木商社によつて山が丸裸にされてしましました。森林を育て

て、川は真っ赤つか。魚はいなくな
る。動物も小鳥もいない。林業や漁
業で生業を得ていた人間もいなく
なつてしまつた。實に情けないこ
とを日本はやつてきたんです。そ
してそうやつて輸入してきたラワ
ン材だけど、結局日本の風土に合
わなくて、30年たつたらボロボロ
になつちゃつた。

林だと、いうのに、林業が衰退する
のは悲しい話です。

小田原 日本は豊かな森林があり、その水を良いい水が出て、川もきれいになります。その水を使うから畑も良くなるし、漁業も良くなるんです。森が良いければ動物だって喜ぶ。だけど今はそうならないのはとても悲しいことです。

入つて高校生に授業をしていますね。

す。 大自然の恩恵。あのあつたかさがあるから昆蟲も生き生きとして、良い土をつくってくれてゐるんじやないかな。良い土づくりをしてくれるのは人間ぢやないんですよ。昔の林業家はそういうことを考えながら仕事をしていたんだと思いま

吉松　立ち枯れを起こしている林もあると聞きます。森が雨水を含むスポンジの役割を果たせずに嵐が地でクマ被害がニュースになつてゐるけれど、クマたちが食べるどんぐりとか椎の実も無くなつてきていました。

小田原 椎の実は、人間が食べて美味しいと思うくらい、良い味なんですよ。クマたちも被害者なんです。もう一つ大事なことがあります。

吉松 小田原先生がいつも「戦争と同じくらいひどい」と、話す出来事ですね。

ことによつて、根元に日が当たつて下草が生えて、それで微生物が増えます。きちんと管理されて、微生物が多い表土の中に手を突っ込むと、上等な毛布に包まれたような気持ちよさがあります。それは

日本での仕事のやり方はゴミが出るやり方をしてしまっています。ちゃんとした設計をして、計画をして仕事をしたらゴミは出ないはずなの。例えば、昔は買い物して魚を包むのも新聞紙だったり、木の皮だったり、竹の皮だったりしたでしょう。それらはかまどに入れちゃえばすぐに燃えちゃった。吉松　自然の恵みで用が足り、ゴミが出ることもない、一石二鳥だつたんですね。

始めます。質の高いインテリアアリフオームを提案し、それを賃貸住宅の市場に広めたい、そしてそこですることで日本の賃貸での暮らしを良くしていきたい。そのためにも魅力的なデザインが必要ですと、木工家の育成も必要。森林問題は単にここを直せば良いということではなく、多くの要因が関わりあっています。しかし、決して解決できない問題ではないと信じています。

ゴミが出ることもない、一石二鳥だつたんですね。

吉松　日本の賃貸住宅が空室になっているということは、巨大な

チックだらけ。だからゴミ収集車がぐるぐると走り回らないといけない。こういう課題があるからこそ、僕は、日本の森林資源を今一度見直し、有効に活用することが大切だと思っています。需要が生まれてはじめての森林管理のサイクルが動き

経済損失。今こそ、オーナーの皆さ
んには本質を見極め、本当に喜ば
れる住宅を作つていつて欲しいと
思います。それが日本の森や環境
を守ることにもつながるはず。先
生の言う「楽しくてしようがない業
界」にしていなくちゃ、ですね。

会社紹介

The Company

・会社名	株式会社Hello News
・代表取締役	吉松 こころ
・所在地	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-2-12 日本橋小樓201
・設立	2015年4月10日

事業内容

Our Services



とにかくわかりやすい、読みやすい冊子作りをしています。難しい文章はやさしく、やさしい文章は具体的に、具体的な文章は面白いエピソードを満載に。お客様の会社の方針や考え方、歴史を理解し、会社の顔になるような制作物を目指しています。



まだ世の中に届いてないような、小さな声を集めたいと思っています。他には載っていない記事を書こうと思っています。
読んだ後、「良いことを今日ひとつ知ることができた」と思ってもらえるような原稿を書きたいと思っています。



取材の現場で集めた生の声や、自分で体験したことを話しています。たくさんの情報の中から特に押さえて欲しいことをくいあげます。
一見、まったく異なるように見える情報の中からつながりを見つけています。必ず仕事のヒントになる話をします。



カレンダー、紙袋、ノベルティー、クレドなど、ご相談ください。



www.hellonews.jp

小田原 健

(おだわら たけし) 家具デザイナー

1934年、静岡県浜松市生まれ。

1954年に木工名人の三輪磯松氏に従事。

また、東急電鉄の五島慶太氏の専任デザイナーである宮内順次氏の助手を4年間務めた。

その後、建築家の吉村順三に見出され、設計協力。

28歳で東京芸術大学建築学部の講師に抜擢される。

現在は一般社団法人ARTISAN日本の理事長として、日本の家具職人の技術を次世代に伝えるプロジェクトを進めている。



メッセージ

私は小さい頃から、大自然とものづくりが好きな子供でした。そしてデザイナーになりたいという夢を実現するときに、人生の中で大きな出会いが3つありました。木工芸名人 三輪 磯松氏、建築家 吉村 順三氏、経営名人 塚原 博氏という、ものづくり、設計、経営の3人の恩師との出会いでした。その中で学んだのは「足を地につけ歩め。作る技術から生まれるアイデア、デザインは本物である。依頼者の気持ちが形に見える。心を揺るさせる提案力を学ぶ。デザインが現物となった表現美の住空間は人を育てる。技術とデザインが歴史を築く。そして人々が大切してくれることで作品が独り歩きをし、世界に広がる」という志でした。「デザインの力で森林を甦らす」それに確かな技術を持った「顔の見える職人」が必要です。歴史が証明している国産材と技術を現代に活かす「日本の木と共に暮らす」をテーマに、都市の巨大リフォーム時代に素晴らしい建材「日本の木」を活用し、流通と生産のシステムを見直し地域の資源を使って地域の人たちで、地域の産業にし日本中の森の付加価値を高め地域を元気にしていきましょう!

